



那須町と 近現代の人々

vol.09



渋井二夫(1896-1990)

9月号は、日本の体育教育にダンスを普及させた渋井二夫を紹介します。

渋井二夫は、旧芦野町出身で、青山師範学校(現東京学芸大学)を卒業後、教員生活を開始しました。大正9年、青山師範学校訓導となると同年5月に開催されたダンス講習会に参加し、そこで体育ダンス(ジムナスティックダンス)の指導を受けました。当時の体育は体操中心の男性向けのもので、女性に合わせた体育は行われていませんでした。そこで渋井は、フオークダンスや舞踊を組み合わせ、女性向けに体育ダンスを構成しなおし、その普及に努めました。

同年、渋井は大日本体育ダンス研究会を設立し、体育ダンスの研究と普及に力を注ぎます。全国で体育ダンスの講習会を開催し、会員は最盛期で5万人を数えました。また、大正14年には『体育ダンスの理論と実際』を刊行するなど精力的に著作活動も行っています。

渋井は、昭和10年に文部省内の財団法人勤労者教育中央会、昭和11年に日本女子体育専門学校(現日本女子体育大学)教授、昭和15年に大政翼賛会内の全日本舞踊専門代表委員長に就任します。すると体育ダンスは、公的なバックアップを得て全国に普及し、渋井はダンス界の第一人者として名が知られていきました。

しかし日中戦争の勃発以降、体育ダンスは、国策に沿い皇民育成を主題としたダンスへと変化し、「体育ダンス」から「国民舞踊」へと名称が変わりました。またダンスの楽曲も「故郷」や「荒城の月」から「海の荒鷲」など軍歌に変わり、軍国への志気を高揚させるものへと変わりました。

敗戦後、渋井は公職追放を免れましたが、教職に戻ることもなく再び表舞台に登場することはありませんでした。

もうすぐとちぎ国体が開催され、那須町でも競技が行われますが、この機会に郷土の先人が広めた「体育ダンス」にも関心を寄せてほしいと思います。

(写真は渋井二夫『尋六体育ダンス新教本附創作法』より引用)



先日、「お土産です」とプチタオルをいただきました。どこに行ってきたのだろうと眺めていると、包装紙に「注文の多い料理店 山猫軒」と書いてありました▼注文の多い料理店は宮沢賢治の作品の一つです。私は、少し考えましたが、どうにも内容が思い出せません。「最後は、どうなったんだっけ」周りの人たちに聞いても、皆、一

堂に「わからない」とのことでした▼そんなことがあったのも忘れて、日常を過ごしていたある日、ふと思いつき、どうしても話の内容が知りたくまりました▼図書館に行き、受付で「注文の多い料理店の本を探しています」と伝えると、係の方は慣れた手つきでパソコンを操作し、「少々お待ちください」と言うと、文庫本1冊と絵本3冊を探して持ってきてくれました▼私は、早速、文庫本に目を通し内容を確認しました。思っ

いた結末とは違いましたが、内容を知れたことに満足しました。せっかく持ってきてくれたので、絵本も見てみようかと、3冊を横に並べ眺めてみました。書いてある文章は同じでしたが、挿絵には個性があり、お気に入りを見つけることができました▼インターネットを使えば簡単に情報が手に入る時代ですが、あえて時間を割いて行動したことで、満足のいく結果を得ることができ、有意義な一日を過ごすことができました。

こんにちは 赤ちゃん



令和4年1月生まれ



とうま 青木 柁真くん

柁真くんは…
お兄ちゃんと一緒にカーズのトミカで遊ぶのが大好き!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(8月1日現在・住民基本台帳)()の数字は前月比

•世帯数	10,611世帯 (+35)	出生	5人 (+ 1)
•人口	24,385人 (-8)	死亡	28人 (- 7)
	男 12,145人 (-5)	転入	93人 (+16)
	女 12,240人 (-3)	転出	76人 (+13)
		その他	2人